

## 上関原発を建てさせない山口大集会 御中

黒田節子（原発いらない福島の人たち）

長い長い闘いを続けておられる祝島島民の皆さまと支援の皆さまに、福島からひとこと応援のメッセージを送らせていただきます。

残念ながら私はいまだ上関を訪れたことがないのですが、上関にまだ原発が建っていないのは、祝島の皆さまと支援の方々が40年もの長い間ずっと「原発反対」を闘い続けてこられたから、ということ仲間や先輩から伝え聞いております。漁業補償金の受け取りを拒否し、原発計画を止め続けてこられた漁師の方々には、心から尊敬の意を表します。

また、毎週なされてきたという女たち中心のデモ行進には、同じ女性として特に共感と驚嘆です。行動の時には命がけ、女性も総出で参加し大きなケガをされた方もあったと聞きました。海は全ての生命の源。豊かな海を守る闘いが生活の一部となり、生活そのものにもなっていったらう祝島の反対運動の歴史を、福島から熱いまなざしを持って思い描いております。

さて、ご存知の通り、10年前の3月11日に福島第一原発は壊滅的な事故を起こしました。溶け落ちたままの核燃料(デブリ取り出しは不可能だといわれています)、汚染水問題、不足する原発作業員と「被ばく労働」、増える健康被害（子どもたちの甲状腺ガンとその強い疑いが252人にもなったというのに、いまだに原発から出た放射能のせいだとはいわない国と県、専門家たち）、避難者への住宅補償の打ち切りと帰還政策、焼却炉問題、汚染土壌の再利用、モニタリングポスト撤去問題。そして、マスクコミを使った安全・安心キャンペーンの中で本当のフクシマがどんどん消されようとしています。オリンピック？ふざけるな！です。責任者が罰せられず、原発再稼働の動きが全国あちこちにあります。事故を収束することもできず、後の世代に渡る負の遺産を生み出してしまいう原発は、絶対に作ってはなりません、動かしてはなりません。

最近の福島での動きを、一つだけ報告させてください。経済産業省設置のALPS（アルプス）小委員会が汚染水海洋放出案を出しました。これはとんでもないことです。コストを優先してタンク貯蔵の汚染水を海に流すことは、福島の再生途上の漁業者に二重の打撃を与えるものであり、さらには多様な生命と未来に対する冒涇そのものです。人間の都合で海をこれ以上汚してはなりません。

市民の根気強い各議会への働きかけで、福島県内全59自治体中25自治体が海洋放出反対、16自治体が慎重にという意見書を可決しています。全国の漁業組合だけでも70数団体が反対表明をしてくださりました。結果、汚染水処分の日程を決められず、先延ばし状態になっています。油断はできませんが、福島の私たちも決してあきらめないで声を出し続けていくこと、これを祝島の皆さんの闘いに学びたいと思います。連帯し、共に頑張りましょう！

◎NO MORE FUKUSHIMA!（フクシマを繰り返すな！）

◎全ての原発いまずぐ廃炉！

◎上関原発を絶対に建てさせないぞ！

◎コロナを超えて力強く歩んでいきましょう。

# 老朽原発の運転と原発の新設を阻止し、原発のない社会を！

若狭の原発を考える会・木原壮林

福島原発事故から10年ですが、この事故は、原発が重大事故を起せば、海を奪い、農地を奪い、職場を奪い、学校を奪い、生活の基盤を根底から奪い去ることを、大きな犠牲の上に教えました。その原発が老朽化すれば、危険度が急増することは多くが指摘するところです。

それでも、関西電力（関電）と政府は、運転開始後40年をはるかに超え、危険極まりない老朽原発・高浜1、2号機、美浜3号機の再稼働を画策しています。これを許せば、全国の原発の60年運転に道を開くことになります。

ところで、原子力規制委員会が関電の老朽原発の40年超え運転を、拙速審議によって認可したのは、2016年でしたが、この認可以降に、関電の原発では、高温・高圧の1次冷却水が流れる蒸気発生器配管の減肉・亀裂をはじめ、各種のトラブル、再稼働準備工事中の人身事故、原発マネーに関わる不祥事が頻発しています。

一方、関電は、使用済み核燃料の中間貯蔵候補地を2018年内に福井県外に決定すると明言していましたが、この約束を反故にし、その際、候補地探しの期限を2020年とした再約束もまた反故にして、使用済み核燃料を増やし続ける原発の運転を継続し、老朽原発の運転まで進めようとしています。

以上のようなトラブル、事故、不祥事、約束違反は、老朽原発運転認可の過程では想定されなかったものばかりです。原発の40年超え運転が、人の命や尊厳、企業倫理をないがしろにして画策され、無責任な規制委員会がそれを認可したことを示しています。

一方、関電は、2月10日、戸嶋美浜町長に対して「競争入札を経ない発注などにより、地元企業の活用に努める」として、町長の美浜3号機再稼働への同意を取り付けました。関電は、「汚れた原発マネー」体質を全く反省していません。

このような関電と政府・規制委員会が画策する老朽原発の再稼働は、何としても阻止しなければなりません。

原発の40年越え運転と新設を阻止すれば、最悪でも、2033年に若狭から、2049年に全国から稼働する原発が無くなります。

老朽原発の再稼働を阻止し、上関原発を始めとする原発新設を阻止し、それを突破口に原発全廃を勝ち取り、金のために人の命と尊厳を犠牲にする社会と決別し、人と自然が共存し、人が人間らしく生きて行ける、新しい社会を展望しましょう！

## 「上関原発を建てさせない山口大集会」への連帯メッセージ

「上関原発を絶対に建てさせない！」と奮闘しておられる皆さまの取り組みに心からの敬意を表し連帯のメッセージを送ります。

昨年まで岩国市に在住しておりました大川と申します。今は福島県いわき市で教会の牧師と保育園の園長をしています。

3月11日で東日本大震災と福島第一原発事故から10年が経ち、目に見える復興がどんどん進んでいるかのような話題が報道されますが、一年間、暮らしてみて、いまだ多くの人が原発事故の為に故郷を追われ、家族さえも散り散りに暮らさなければならなくなり、目に見えない放射能汚染に不安を持ちながら暮らしておられる大勢の方がおられることも知らされます。

まさに原発は、人間や動植物などあらゆるいのちを奪い、恵み豊かであった山や川、海の自然を奪い、人々が昔から暮らしてきた心のよすがである故郷を奪い、街のコミュニティーも奪ってしまったのです。

私の働く常磐教会では、放射能汚染の不安を抱える人たちと共に歩もうと、「いわき食品放射能計測所いのり」を併設していますが、口にする食べものと共に、学校の裏庭や子どもたちが日常的に遊ぶ公園の隅などで線量が基準値を超えるホットスポットと呼ばれる場所が今も沢山存在している現状を知らされます。

しかし復興の妨げになると言って放射能汚染を言うなという人たちもいます。まさに「基地の町」の分断と同じ構図を「原発の町」でも見せつけられる思いですが、それでも岩国や山口と同じく、「未来の子ども達に誇れる故郷を残したい」と精一杯の声を上げ続ける人たちのおられることに励まされます。

今、いわきでは震災と原発事故から10年を期に、子ども達の学校での甲状腺検査が打ち切れようとしていたり、各所のモニタリングポストが撤去されようとしていたりする動きもあります。原発廃炉の汚染水処理の問題も全く未解決ですし、海上放出など絶対にさせてはならないと思っています。

福島に暮らして、原発といのちは決して相いれないものであることを改めて強く思わされています。

「上関原発を絶対に建てさせない！」「女川原発等、再稼働させない！」「原発汚染処理水を海上放出させない！」等々、共に頑張りましょう。

「あなたは命を選び、あなたもあなたの子孫も命を得るようにしなさい。」(旧約聖書 申命記より)

2021年 3月

大川 清 常磐教会牧師 (福島県いわき市)

〈日本政府による福島第一原発放射能「汚染水」の海洋投棄を日韓共同の力で阻止しよう！〉

2021年3月11日、隣接する日本で核惨事が起こり、今では10年の歳月が流れました。しかし、依然として福島核惨事は進行中です。沸騰している核燃料は除去する方法もなく、熱を冷ますために毎日数百トンの水を注がなければなりません。これは再び放射能汚染水となって、海に流れ込み、地下にしみ込んで深刻な脅威となっています。今1千基以上のタンクに保管されている汚染水の量だけでも約124万トンに達しています。

日本政府は、たまっていく汚染水をやむを得ず、数十年もかけて海に放出すると言っています。「この汚染水が、海の生態系と世界に及ぼす影響は火を見るよりも明らかであるにもかかわらず、日本国内の民衆の反対にもかかわらず、強行しようと考えています」

コロナの危険まで重なった状況でも、東京オリンピックはあきらめていません。福島が安全だと嘘をつく前に、福島の核事故で苦しんでいる近隣の漁民や住民の声に耳を傾けなければなりません。

お金ではなく日本の安全、ひいては世界の安全のために一緒に力を合わせようと率直に言うべきです。

世界のどの国も、原子力発電所を稼働させながら、安全な管理や統制を断言することはできません。事故にならなくても、日常的に放射性物質が漏洩するし、温排水などによる海水温度の上昇など直接的な被害を与えています。安価で安全な電気という嘘が、より多くの消費を煽り、自然へのむやみな破壊をもたらしています。私たち人間も、電気に支配された社会で、より多く所有するために、より長く働かなければならず、果てしない欲望から脱することができないまま生きています。

3.11福島核惨事から10年を迎え、韓国でもすべての核を廃棄するための闘いを始めます。

「日本の福島と韓国の慶州は何も変わりません。日本政府と韓国政府も、核の拡散にだけ没頭するという点で違いはありません。

コロナが、世界がつながっていることを悟らせたように、核の発電と核兵器を廃棄するためには、日韓、さらに全世界が連携しなければなりません。

今までのように、今後も韓国と日本がしっかりと連携し、共同の対応を通じて核廃棄のための長征を共にしていくことを約束します。

- 韓日連帯で菅政権の放射能汚染水の放流を阻止しよう！

- 東京五輪は必要ない。今すぐ取り消せ！

- 福島は続く。すべての核発電を閉鎖しよう

- 2021年 3.11 〈核廃棄のための全国ネットワーク〉